



にってん フォーラム

高田馬場^{いち にーさん しっ!}1-23-4 _____ 長岡英司

2026年度事業計画 _____ 立花明彦

田中会長逝く _____ 長岡英司

シリーズ 点字で生きる～点字制定200年～⑤
自立を支える六つの点 _____ 柳田友和

川崎市視覚障害者情報文化センターだより _____ 藤本 剛

読書バリアフリー法が変える点字図書館の図書製作
_____ 澤村潤一郎

生誕110年記念特別連載 創立者本間一夫の生涯⑤
録音図書事業・盲人用具事業の開始

ドラマや映画に「わくわく用具ショップ」の商品が
_____ 島田延明

現場の小窓 _____ 新郷 愛

私と日点 _____ 河合泰子

「琴線に触れる和楽器の世界」展 開催 _____ 伊藤宣真

ご存じですか?こんな商品

チャリティコンサートのご案内



ワクワク! / ドキドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みている!

「スマホで聞く音声ガイド」 



NPO メディア・アクセス・サポートセンター

〒106-0041

東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル1階

MASC 検索



ボイスキャスト

点字で試験

ながおか ひでじ
理事長 長岡 英司

春は就職や進学の時節です。新社会人や新入学生が身近にいる方も多いことと思います。人生のそうしたステップアップに付き物なのが試験です。試験には、採用試験や入学試験だけでなく、資格や認定を得るためのものもあります。近年、試験の多くが点字でも実施されるようになりました。

私が大学に点字受験で進学したのは1970（昭和45）年です。大学入試が初めて点字で実施されたのは、1949年の同志社大学でしたが、それがすぐに普及することはなく、私の場合も、母校の盲学校の先生がいくつかの大学と粘り強く交渉してやっと実現したのです。点字で対応できない問題は0採点にするなどの扱いが、当時は一般的でした。その後、1979年に始まった国公立大学共通第一次学力試験（現在の大学入学共通テスト）では、点字による出題と試験時間の延長などが正式に実施され、それが全国の大学に波及しました。1973年からは司法試験、1991（平成3）年からは国家公務員試験を点字で受験できるようになり、今では多くの採用試験や資格試験等が点字でも実施されています。

試験問題の点訳では、受験者に過重な負担がかからないよう、適切な点字表記や図表の作成などの配慮がなされています。しかしながら、点字での試験を巡っては、新たな問題が顕在化しています。それは、試験問題の長文化、構成の複雑化、図表等によるビジュアル化などが著しく進んでいることです。点字や触読の特性ゆえに、これらの傾向はいずれも点字受験者に深刻な不利をもたらすものです。そのような背景から、日本点字委員会は昨年11月に『試験問題の点字表記第3版』を発行しました。1999年の初版以来、試験関係者や点訳者に必要事項を周知する役割を果たしてきましたが、今回は特に図表や長文資料の読み取りの助けになる配慮の大切さに重きが置かれました。私も編集委員の一人としてこの発行に関わり、点字の意義や課題を改めて知らされました。社会参加に欠かせない受験の機会が健全に確保されるよう、強く願う次第です。

2026年度事業計画

たちばな あけひこ
館長 立花 明彦

世界秩序が崩れかけ、国際関係が複雑化しています。世界はどこへ向かっているのか、各々の国はどこへ向かおうとしているのか、これからどんなことが起こるのか、先が読めない状態にあります。「歴史は繰り返す。方則は不変である。それゆえに過去の記録はまた将来の予言となる。」(寺田寅彦『科学と文学』1948年)の言葉が心に迫ってくる2026年の春です。コロナ禍以降の人々の暮らしは、社会・経済変動の影響を受け、何かと我慢や苦勞、無理を強いられています。視覚に障害のある人々にとっては尚更で、何某かの生きにくさを感じている人は少なくないと察せられます。こうした中で視覚に障害のある人々に向き合い、知と情報の提供を主にして日常生活や社会生活の支援を行う当法人の使命と役割と期待度は一層増しています。このことを意識しながら事業の運営に当たっていかねばなりません。持続可能で、よりよい世界を目指すための国際目標であるSDGsは、ゴールとした2030年まで残すところ5年となってきました。「誰一人取り残さない」ことを誓うものの、利用登録者数をみると、まだ当館と結びついていない多くの視覚障害者がいることに気づかされます。そうした方々の生活を想像すると、意識的にユーザーになっていない方は別として、当館の存在そのものを知らない人々も一定数いるものと思われる、利用者の掘り起こしも怠ってはならないと考えます。さしあたり、当該部署を中心に戦略を練り行動します。財政の安定化にも引き続き取り組まねばなりません。近年は募金収入の変動が生じていて、公的助成の抑制などの傾向が顕著で、今後の財政状況は厳しさを増すことが予想されます。2025年度においては寄付金収入の増額を目的に新たな取り組みも行ないました。その振り返りを丁寧に行ない、次に結び付けたいと思います。今年度も五つの重点課題を設定していますが、紙数の制約から、そのうちの三つをご紹介します。

1. 来館型図書等提供サービスの充実：点字図書館の貸出は郵送が主である

ため、来館者が少ないのが一般的です。しかし当館は「わくわく用具ショップ」があることから、年間を通じて多くの方々が来館します。とはいえ、図書情報カウンターへの訪問は少なく、閲覧室の利用はカウンターへの訪問に比してさらに低調です。それは、単にニーズがないのではなく、利用しにくい環境にあたり、PR 不足にも原因があると推察されます。「利用者と資料を結びつける」図書館の使命に立ち返り、点字図書館として直接的利用の可能性を追求すべく、閲覧室等の整備を進め、利用増を図ると同時に、関連する催しの開催を模索します。

2. 生成 AI 活用の可能性についての実証的検討：生成 AI の活用が広がり、AI 技術は世界的な競争をもって開発が進み、一大成長産業になっています。当館でもその導入と活用に注目しており、昨年度から製作効率化検討 WG を発足させて有料版の生成 AI を用い、図書製作・プライベートサービスの現場における製作にかかる省力化と効率化を進め、製作数を一定数維持できる仕組み作りを模索しているところです。これは単年度で成果を得られるものではなく、同時に技術革新も目覚ましいことから、今年度も継続して取り組みます。また川崎市視覚障害者情報文化センターにおいては、業務全般における AI の活用を検討すべく、その前段として知見を得る機会を確保し活動します。

3. SNS を活用した広報の拡充：SNS の影響力は大きく、当館でも既に、これを活用した広報を行なっています。用具課で扱う商品や自立訓練の紹介では、YouTube チャンネルも開設していますが、それぞれ部署の判断で行っていて、更新も不定期で不十分です。社会一般では画像や動画が好まれ、これらを介した情報発信が盛んであることに対応し、拡充を図り、存在やイベント等を PR すると同時に、視覚障害者の啓蒙・啓発をも行ない、支援者の獲得に結び付けて参ります。取り分け、YouTube はチャンネルの整理をしてわかりやすさを第一義に改善し、合わせて他のメディアの可能性も検討します。

これらの課題について着実な成果を得、事業やサービスの安定と発展を強化できるよう努めて参ります。改めて、当館への変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げます。

田中会長逝く

ながおか ひでじ
理事長 長岡 英司

去る3月10日、当法人会長の田中徹二が、91年余の生涯を閉じました。直前の週の後半まで、ご寄付への点字のお礼状をしたためるために当館へ足を運んでいましたが、週末に風邪の症状から体調を崩し、入院先で息を引き取りました。あまりに突然の逝去に、皆が大きな衝撃を受け、戸惑いが続きました。

田中は、1934（昭和9）年に東京で生まれました。早稲田大学第一理工学部建築学科に入学し、憧れの道を目指したものの、在学中の19歳で網膜剥離のために失明し、夢は潰えました。三療（按摩、鍼、灸）の資格を取得するとともに、早稲田に復学して第二文学部英文学科を卒業し、病院の整形外科・機能訓練室に勤務しました。その間に、点字の触読や白杖歩行のスキルを習得した生き方は、視覚障害リハビリテーションの手本とも言えます。そのような評価からか、都の心身障害者福祉センターに転職し、視覚障害者に対する指導や支援を担当しました。また、NHKの視覚障害者向けラジオ番組の制作に長年協力したことは、よく知られています。

創業者・本間一夫に求められて田中が当館の館長に就任したのは1991年です。以後、館長と理事長を通算31年務め、2022年に名誉職である会長に退きました。この30数年、視覚障害者の読書環境はデジタル化によって大きく変貌しました。録音図書のDAISY化は代表的な一例ですが、当館はその普及で国内における中心的な役割を果たし、田中はそれを導きました。また、アジア・太平洋地域で点字図書館の整備や視覚障害者の福祉向上をデジタル機器の活用によって図る国際支援事業も、田中が力を注いで成果を上げた取り組みです。2008年のNHK放送文化賞、2011年の旭日小綬章、2015年の点字毎日文化賞、2018年の岩橋武夫賞などの受賞は、多彩な功績の社会的重要性を物語っています。

最後になりましたが、これまで田中に対して様々なご厚情をくださった多くの皆様に、改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

シリーズ 点字で生きる～点字制定200年～⑤

自立を支える六つの点 —職業訓練の現場から—

日本視覚障害者職能開発センター やなぎた ともかず 柳田 友和

全盲の私にとって点字は人生を共に歩む「大切な文字そのもの」です。現在は職業指導員として、視覚障害者の就労支援に携わっています。

かつて企業のIT部門に勤務していた際、点字ディスプレイは仕事を進める上での心強い味方でした。複雑なシステム管理や問い合わせが重なる現場では、相手の声を聞きながらメモを取り、内容を復唱し確認する作業が必須です。「聞く」と「読み書き」を切り離し、音の重なりを避けて情報を処理できる触読文字の性質に助けられました。

職業訓練の現場でも、点字の力を実感します。講義中に点字でメモを取る受講生は、講師の声とパソコンの音声ガイドを同時に聞き分けるという耳への大きな負担を避けることができます。集中して話を聞きながら記録を行う受講生は、結果としてコマンドの習得も早く、情報を論理的に整理してノートをまとめることにも長けているように見受けられます。点字を通じた能動的な学習習慣が、体系的な知識の習得を優しく後押ししているのではないのでしょうか。

点字の力は、日々の暮らしも支えてくれます。処方された数種類の薬はジップロックに分け、点字ラベルを貼って管理しています。指で触れるだけで、誰の手も借りずに正解にたどり着ける。この「確実さ」があるからこそ、間違えてはならない情報を自らの手で守り、安心して毎日を過ごすことができます。

昨今、音声技術の進歩に伴い「点字はもう不要なのでは」という声も耳にしますが、音声による情報取得は受動的になりやすく、長時間の利用は聴覚への負担も小さくありません。対して点字は、自ら指を動かし、思考を整えながら情報を血肉化できる、自立のための文字です。自分のペースで言葉を操る感覚こそが、職場での自信や誇りにつながるのだと信じています。

ブライユが六つの点に込めた「知識の扉を開く」という願い。その灯を絶やさぬよう、点字の魅力を一人でも多くの方に伝えていきたいと願っています。

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

共に探る読書バリアフリーのかたち —公共図書館との協働より—

利用者サービスグループ ふじもと ごう 藤本 剛

川崎市視覚障害者情報文化センターでは、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」通称、読書バリアフリー法の理念を具体化する取り組みとして、市内をはじめとした公共図書館との連携を進めている。昨年度はそれまでに植えた種がいくつか芽を出す年であった。

10月、川崎市内の公共図書館から障害者サービス担当職員8名が当センターを視察として訪れた。これまで双方は、それぞれの立場でサービスを実施しており、十分な交流がなかった。しかし、読書バリアフリー法施行を契機に読書環境整備への機運が高まる中で、当センターが役に立てる部分と、それに対する公共図書館の理解が、具体的な動きとなって結実したものであった。当日はセンターの活動紹介に加え、拡大読書器の実機確認なども行われ、互いに利用者と向き合う担当者同士の、実務に根差した意見交換の場ともなった。

続く11月には、川崎市立宮前図書館との共催により、出張読書会「小説の中の音を楽しむ会」を開催した。会場は宮前図書館の視聴覚室、進行は当センターの担当で、朗読と作中で取り上げられたピアノ曲を組み合わせて聞き、視覚障害の有無に関わらず、耳で共に味わう読書会を実施した。当日は定員30名を超える参加があり、視覚障害者の読書環境について触れる時間も設け、中には「初めてセンターやサピエのことを知った」といった声も聞かれた。

これらの取り組みは、一朝一夕に成り立ったものではなく、当センターと公共図書館とがどのように手を取り合うかを互いに模索してきた中で実現したものである。今がまさに、公共図書館との距離を縮め、当センターがより広い規模で、誰もが読書を楽しめる地域の実現に寄与するチャンスだと言えるだろう。

日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。

読書バリアフリー法が変える点字図書館の図書製作

さわむら じゅんいちろう
図書製作部長 澤村 潤一郎

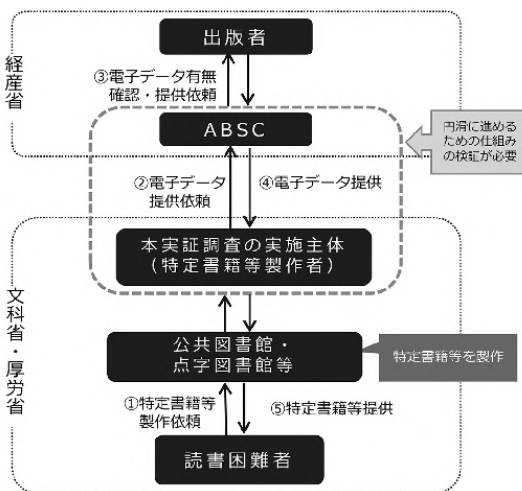
「出版社からテキストデータをもらえないんですか？」

見学やイベントで来館された方に点字図書やテキストデイジー図書の製作現場をご案内すると、その手間を見かねたのかこんな質問をいただくことがありました。

テキストデータから製作を始められれば、紙の原本を裁断してスキャンしなくともよいですし、点字へは自動点訳ソフトで一気に変換できます。人の手や目を介する作業を減らせるので、それだけ利用者へ早く図書等をお届けできるでしょう。

これまで、出版物とくに新刊書のテキストデータを入手するには、出版社と個別に交渉してみるしかありませんでした。目的が理解され、実際に入手までこぎつけるとは限らず、かえって時間と手間がかかりがちでした。

このような状況を、読書バリアフリー法が変えようとしています。出版社から障害者サービスを行う公共図書館や点字図書館等へのデータ提供を促進することが、国の役割となったのです。その体制づくりのための実証調査が2025年度から始まりました。当館は協力館の一つとして、また検討ワーキンググループのメンバーとして参加しています。初年度から、出版社側・図書館側・システムそれぞれの課題が浮き彫りになりました。それらの解決のために、当館は今年度も積極的に協力していきます。読書バリアフリーの将来に関わる、重要な取り組みだからです。



検討中のスキーム（実証調査資料より）

生誕110年記念特別連載◎創立者本間一夫の生涯⑤ 録音図書事業・盲人用具事業の開始

本間一夫記念室

1950年代に入りテープレコーダーが普及し始めた。1957（昭和32）年2月、中日黒教会の人々がテープレコーダーで本の朗読音声テープに録音し、盲学校の生徒に届けたのが、わが国での視覚障害者向け録音図書の始まりとされている。当館においても視覚障害学生らから録音図書の製作貸出の要望が寄せられ、点字図書さえまだ満足に提供できていないのにという館内の反対の声もあったが、一夫は着手する決断をした。

篤志家より寄贈されていたテープレコーダー、アカイ900を使用した、職員橋本ミチの朗読による菊村到著『硫黄島』が録音図書第一号である。テープレコーダー以外にも、磁気を塗布した紙ベースのシートを媒体とするシンクロリーダーという機械が開発され、メーカーのキヤノンより寄贈されていた。シンクロリーダーは大量印刷が可能な方式であり一夫も絶賛していたが、検討の結果、音質が劣る、収録時間が短い、機械が高額である等により当館の録音図書はテープレコーダー方式に決定した。1958（昭和33）年9月23日、日本コトバの会の^{かわのけいせん}川野圭泉をはじめとする朗読奉仕を志す人々29名により「盲人のための朗読録音研究会」を開催し、この日を当館の録音図書製作貸出事業のスタートの日とした。

図書館敷地及び一夫の私有地に隣接するように、南側に増毛の本間本家の私有地があり平屋の洋館が建てられていた。養母キミが上京したときに友人を招くなどに使用したりしていたが、しばらく使用



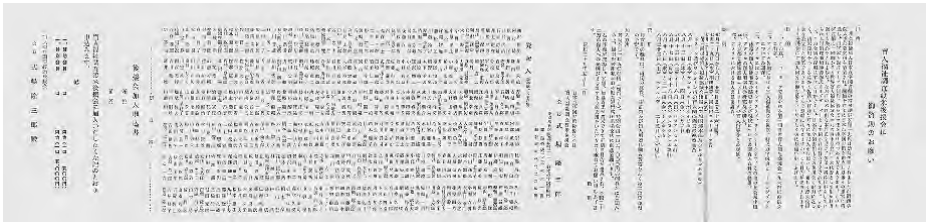
昭和30年代前半の、西側から見た図書館全景。右側が取得した隣地と洋館。

されていなかった。録音図書事業は実家には無断でこの洋館で開始した。ところが、開始間もなく突然実家から隣地の土地と建物を財産税の支払いのため手放すとの知らせが届く。すでに事業を始めている建物であり、他人の所有になると今後の図書館事業の拡大発展が絶望的になることから、一夫は実家からの買い取りを決意、精神科医・式場隆三郎^{しきばりゅうざぶろう}に助力を求めた。

式場は本業「式場病院」の他、山下清の支援者、ゴッホの研究家、民藝運動の推進者として知られるが、1952（昭和27）年、自身の著書『ヴァン・ゴッホの生涯と藝術』の点訳を一夫に依頼しており関係があった。このとき式場に一夫を紹介するという、以後の当館の発展を考えたとき重要な役割を果たした人物がいるのだが、それは誰であったか明らかになっていない。式場とは民藝運動の仲間であり、一夫の関西学院時代の恩師である壽岳文章^{じゅがくぶんしょう}である可能性が高い。

式場は一夫の願いを即座に受け入れ、後援会の結成を提案した上に会長就任も快諾した。11月7日後援会準備懇談会、翌1959（昭和34）年1月13日後援会第1回発起人会を開催。式場の自筆署名入りの依頼状を携え、一夫は川野と寄付依頼のため経団連の協力のもと財界を奔走した。最終的には400万円の寄付が集まり、社会福祉事業振興会からの借入や東京都共同募金からの補助も受け、実家への支払いを済ませた。9月21日、隣の土地と建物は当館の所有となった。その後この土地には鉄道弘済会によるテープライブラリーが建設され、録音図書製作の発展につながる。式場の協力は、借入金の返済もありその後も惜しみなく続き、当館支援のためのチャリティイベントなども開催した。

1964（昭和39）年2月3日、来館した式場が帰ろうと立ち上がった時、一夫は夏にニューヨークで第3回世界盲人福祉会議があることを話題にした。式



「盲人福祉調査渡米後援会にご賛助のお願い」

場は腰を再び下ろし、費用は何とかなるから行くようにと出席を促し、そのための特例募金活動を開始した。3か月後、5月13日には、発起人に徳川無声とくがわむせいら402名の名士たちの名前を掲載した「盲人福祉調査渡米後援会にご賛助のお願い」とする長さ71cmにも及ぶ依頼状を作成した。これには単に会議の出席だけでなく、アメリカにおける視覚障害施設の視察など合わせ6項目の目的が掲げられていたが、その中に、アメリカの盲人用具の研究及び購入があった。

集まった寄付金は予定額をはるかに超え、一夫と同行の加藤善徳よしのりの二人はヨーロッパ諸国も回り、費用を切り詰め視察と盲人用具の収集に努めた。結果、50日間、ニューヨーク以外にも9か国47都市、40数施設を回り、9月12日に帰国した。収集した盲人用具は150点。盲人用具収集品は、翌年、館内での展示会を3回開催し、合計646名の来場者があった。計量器、調理器具など生活用品がほとんどである展示会の反響は大きく、視覚障害者のニーズの高さを示した。欧米では盲人福祉施設にこれらの購買コーナーがあることの便利さを肌で感じていた一夫は、これを機会に盲人用具の開発あっせん事業を開始した。

2つの大きな募金活動をけん引した式場は、一夫らの渡航の翌年1965（昭和40）11月21日に病没した。式場の活躍の場でもあった医科芸術クラブの機関誌『医科芸術』は翌年2月に追悼号を発行、一夫も追悼文を寄せている。

「（略）あの細やかなしかも自然なご親切を、私は深く身にかけて忘れることができない。口はばったいいい方であるが、『なんとかして先生のようなあたたかな人間になりたい』とは、私がいつも周囲のものに話していたことである。これからも、なにかことあるときには飛んでいっておすがりすれば、必ず抱きとって下さる——私はいつもそんな安心感をもって、先生に接していたのである。（略）」

追悼文のタイトルは「呆然自失」であった。

（つづく）

（本連載では、新資料により既刊の本間一夫の伝記内容から一部改めて記述しています）



式場隆三郎

ドラマや映画に「わくわく用具ショップ」の商品が

しまだ のぶあき
生活支援部長 島田 延明

世に映像作品はごまんとありますが、中には視覚障害者が登場するものも製作されています。古くはシリーズとなって、後にドラマ化もされた『座頭市^{ざとういち}』がそうですし、盲導犬をテーマにした『盲導犬クイールの一生』も多くの人の記憶にあることと思います。

視覚障害者が登場する場合、その実像を正しく描く必要性も生じるため、日常において視覚障害者が用いている物も映像の中に出てきます。白杖、点字器、点字タイプライター、遮光眼鏡などはその代表で、出現回数の多いところです。

映像を作成するにあたり、当館の用具ショップにはこれらの道具についての問い合わせが関係者からしばしば舞い込んできます。最近の作品では、全盲のFBI捜査官が主役となった『ラストマン』（TBS系2023年、劇場版2025年）。作中で使用された点字タイプライターやルービックキューブは当館から貸し出したもので、白杖は購入いただきました。また2021年に日本テレビ系で放送された、盲学校に通うロービジョンの女子学生が主役の『恋です！～ヤンキー君と白杖ガール～』では、ロービジョンの人でも見やすいマグカップ、財布や白杖などが用いられましたが、これらも当館で相談し購入いただいた物です。

このほか、点字の図書を提供することもありますし、視覚障害者の動きやしぐさなどについてアドバイスすることも少なくありません。映画『もしも脳梗塞になったなら』（2025）では、白杖を買うことができる場所として用具ショップの映像が流れました。

映像制作の方々にとって視覚障害の世界は未知のようで、道具やその使い方、点字の仕組みなどをお伝えすると「なるほど!」「そうなんですね！勉強になりました」との感想が返ってきます。人物の動きや使っている物などがリアルであるほど、リアリティ（説得力）も担保され、作品としての質があがると同時に、視覚障害についての正しい啓発にもつながります。今後も、裏方での貢献に努めてまいります。

「びぶりお工房」と「びぶりお工房全体会」

録音製作課 しんごう あい
新郷 愛

録音図書製作は、多くのボランティアの皆様にご協力いただいております。活動方法は、当館のスタジオで録音いただく方法と、びぶりお工房にご参加いただく方法がございます。今回はびぶりお工房とその全体会についてご紹介いたします。

びぶりお工房は、録音図書をより早く利用者に提供することを目的に、全国各地のボランティアがご自宅でインターネットを活用して製作する取り組みです。リーダー（朗読者）・パートナー（校正者）・コーディネーター（管理者）の三人一組で、協力して一冊の本を仕上げていきます。

普段のコミュニケーションは連絡票（びぶりお工房システム上のメール）が中心で、お互いに顔を合わせる機会は多くありません。そこで年に一度、びぶりお工房全体会を開催し、皆様が集まる場を設けています。ご来館が難しい方にも参加いただけるよう、会場とオンラインのハイブリッド形式で行っています。

全体会の内容は多岐にわたります。判断に迷いやすい事例の検討や、共通ルールの確認のほか、講師をお招きし、音訳講座などを実施することもあります。技術の向上を図るとともに、皆様の連携を深める大切な機会です。

昨年は、実際の録音図書の利用者をお招きし、懇談会を開催しました。寝る前に聞いている方、同じ本を複数のボランティアの声で聞き比べている方など、多様なスタイルで読書を楽しまれている様子が伝わってきました。「図表の説明は詳しい方が良いか」「朗読者の声が合わないときに読書を中断するか」といった質問にも率直にお答えいただきました。完成した図書が利用者の生活に寄り添っている様子を知ることができ、製作の意義を改めて実感する時間となりました。ボランティアの皆様からは「利用者の生の声を聞けて良かった」「参考になった」と大変好評でした。

全体会の課題は、より多くのボランティアにご参加いただくことです。顔の見えない活動だからこそ、直接交流できるこの機会をご活用いただければと思います。参加者の意見を取り入れながら、参加したくなる企画を考えてまいります。



私と日点

個人朗読・テキストデイジー編集ボランティア かわい やすこ 河合 泰子

20年余り前のことです。

朝日新聞に「ボランティア募集」の小さな記事が掲載されました。

日本点字図書館でパソコンが使えるボランティアを募集していると知りました。当時地元のサークルで音訳をしていましたが喉の病気を発症したため音訳はできなくなっていました。

そこで早速応募、日点でパソコンに関する簡単な試験がありました。

無事に合格して半年くらいでしょうか、週1回程度の講習に通い、その後デイジーボランティアとしての活動が始まりました。私たちが1期生、そのあと3期生まで募集がありました。2期生、3期生の講習には私たちもお手伝いで参加しました。教材は田中共子先生たなかともこご朗読の『味と香りの話』（岩波新書）でした。

そのころのパソコンは「予期せぬエラーが発生しました」とアラートが出て強制終了してしまうことがよくありました。パソコンの黒い画面を見ながら「私が何をしたっていうの」と嘆くことがしばしばあり、みんなで慰めあったことを思い出します。

ほどなくしてパートとして働くことになりました。主な仕事はボランティアの方への対応でした。事務連絡ばかりでなく、大きな手術を受けた方から、「こういう兆候があったら、すぐ病院で診てもらって」と教えていただくこともありました。17年間勤務できたのはスタッフの皆様、ボランティアの皆様のおかげと感謝しています。

9年前に退職し、ボランティアとして音声デイジー、テキストデイジー製作に携わっています。編集するジャンルは小説、医学書・法律書などの専門書、新書など多岐にわたります。自分からは絶対に手に取ることがない本が届きます。

次はどんな本が届くのか楽しみです。もともと本を読むのは好きですが、年齢のせいでしょうかこの頃はなかなか読む根気がなくなっています。ですので、編集というかたちで読む（聞く）ことができるのはうれしいです。

現在はデイジー編集が生活の一部、「生きがい」と言ってもよいと思います。日本点字図書館との出会いは私にとって大きな心の拠り所となっています。

ふれる博物館第18回企画展

「琴線に触れる和楽器の世界」展 開催

ふれる博物館館長 いとう のぶざね 伊藤 宣真

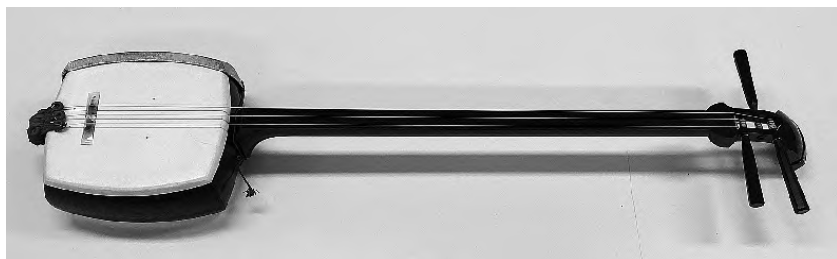
日本点字図書館附属池田輝子記念ふれる博物館の前回企画展は、「にってん feel ハーモニー」と題し西洋楽器と民族楽器をテーマとした展示を行い、約400名の来場者がありました。評判は良く、暖かくなってきた2月末には1日6組の来館枠が閉幕の3月14日まですべて埋まるという盛況ぶりでした。

その続編として第18回企画展は「きんせん 琴線ふに触れる和楽器の世界」と題し、和楽器を展示します。

前回に引き続き武蔵野音楽大学楽器ミュージアム、一ツ目弁天会のほか、地歌とみたせいほうの富田清邦、太鼓かたおかりょうたの片岡亮太など視覚障害演奏家からの協力も得て、琴、大正琴、三味線、和太鼓、尺八、高麗笛こまぶえ、琵琶などの展示を予定しています。

また、楽器ではありませんが、明治天皇の遺品であるヨーロッパ製のオルゴールの音も楽しんでいただきます。日本の曲6曲を奏でる貴重なものです。

今回は模型でなく現物展示が多く、大きさ形だけでなく重さも体験できます。会期は5月20日(水)から9月26日(土)まで。開館日は祝日を除く水曜日、金曜日、土曜日です。



【お申込み・お問い合わせ】

※ 事前予約制です

090-3247-7290 (10時～16時) (ふれる博物館開館日のみ)

03-3209-0241 (代) (9時～17時) (その他の日、本館代表番号)

ご存知ですか?

こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な新商品をご紹介します。ウェブショップからもお買いものができます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ 03-3209-0751
URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

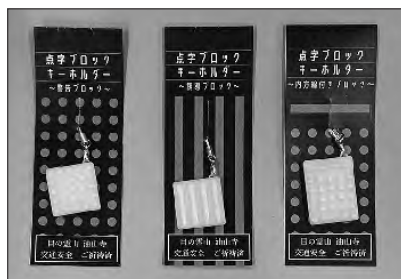
点字ブロックキーホルダー

[大きさ] (縦) 105 × (横) 30 × (厚さ) 5mm (ストラップ部含む)

[重さ] 7g

[販売元] NPO法人六星 ウイズ蛭塚

[価格] 575 円 (税込み)



静岡県浜松市にある NPO 法人ウイズ (目の見えない・見えにくい人達の就労継続支援 B 型事業所) が点字ブロックの大切さを多くのかたに知ってもらいたいという思いから製作したキーホルダーです。

静岡県袋井市にある目の霊山、油山寺^{ゆざんじ}にて交通安全の御祈禱を行っています。

身近なバッグや鍵などに付けて、お守り代わりにしてみたいかたがでしょうか。

種類は次の 3 種類です。

■警告ブロック

注意すべき位置を示すブロックです。点が並んでいる形状をしており、階段、横断歩道、案内板、障害物など注意を要する場所の前に設置されています。

■誘導ブロック

進行方向を示すブロックです。縦長の線が並んだ形状をしており、突起の方向にしたがって進むことができるように設置されています。

■内方線付きブロック

駅でホームの内側と線路側を示すブロックです。従来の警告ブロックに加えて線状の突起が追加されており、線状の突起がホームの内側を示すようになっています。

第24回本間一夫記念日本点字図書館 チャリティコンサートのご案内

毎年多くのご協力をいただいていますチャリティコンサートを、今年はピアニストの草^{くさ}冬香^{ふゆか}さんをお迎えして開催します。

草さんは、東京藝術大学を経て、同大学院修士課程を修了後、ドイツ国立フライブルク音楽大学ディプロム課程およびソリスト課程をそれぞれ最優秀の成績で卒業し、国家演奏家資格を取得されました。第4回ローゼンストック国際ピアノコンクール第1位ほか多くの賞を受賞されています。東京藝術大学非常勤講師を務めたのち、現在は洗足学園音楽大学非常勤講師を務め、後進の指導にも力を注いでいらっしゃいます。



[出演] 草 冬香

[日時] 2026年12月12日(土) 14時開演

[会場] 練馬文化センター 小ホール

(練馬駅北口より徒歩1分)

[料金] 4,000円(全席自由)

今回は、例年と会場が異なりますのでご注意ください。

チケットのご予約受付および発売は、夏頃を予定しております。お申し込み・お問い合わせは当館総務課(電話03-3209-0241)まで。

「明日につながる支援の力」は都合により休載します。

にってんフォーラム〈第139号〉 2026 春

発行 2026年4月25日〈年4回発行〉

発行人 長岡英司

編集人 立花明彦

発行所 社会福祉法人日本点字図書館

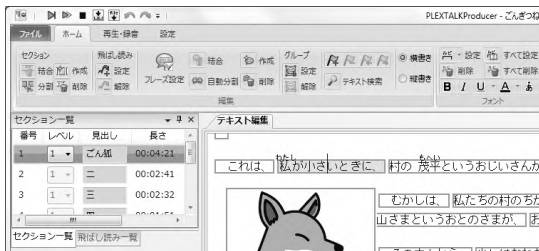
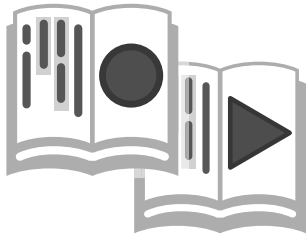
〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4

電話03-3209-0241(代) FAX03-3204-5641

URL <https://www.nittento.or.jp/>

*本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、SNS等で発信、ウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



PLEXTALK Producer

で作れる 新しい DAISY のカタチ

音声DAISY … 録音図書の標準方式

- ⊗ テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- ⊗ CD書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

テキストDAISY … 音声のない DAISY

- ⊗ データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ⊗ ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ⊗ ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- ⊗ 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は www.plextalk.com からダウンロードできます

サポート OS	Windows11、Windows10以降 ※各 OS は日本語のみサポート ※ARM版Windowsは非サポート
プロセッサ	Intel Core i3 以上推奨
メモリ	4GB 以上推奨

レイアウトツール 文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々！

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

PLEXTALKProducer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

販売元：

シナノケンシ株式会社

〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ：

www.plextalk.com

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
※ 記載の情報は2025年9月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。